

JMS NOTES



「人と医療のあいだに…」

第53期 第2四半期事業のご報告

2017年(平成29年)4月1日～2017年(平成29年)9月30日

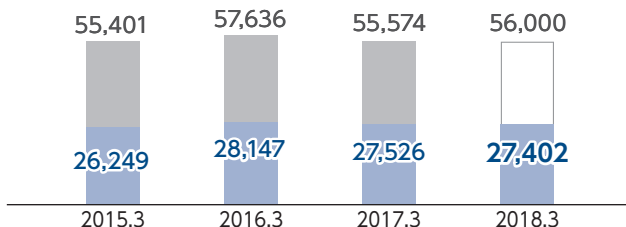
JMS
証券コード 7702

連結財務ハイライト 第53期 第2四半期業績(累計)

売上高

274億2百万円

(百万円) 第2四半期 通期 予想



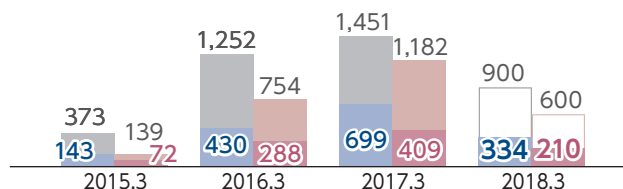
経常利益

3億34百万円

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 2億10百万円

(百万円) 経常利益 第2四半期 通期 予想

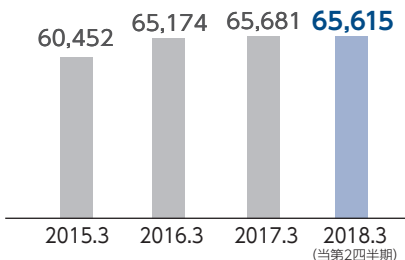
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 第2四半期 通期 予想



総資産

656億15百万円

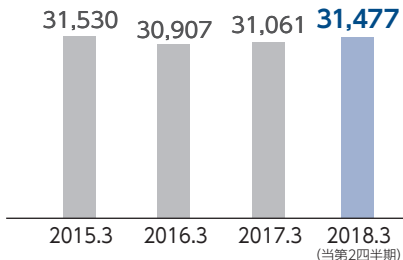
(百万円) 第2四半期 通期



純資産

314億77百万円

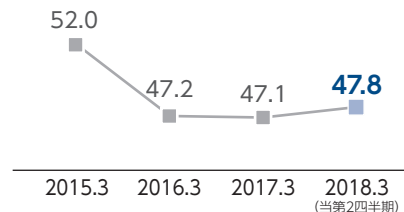
(百万円) 第2四半期 通期



自己資本比率

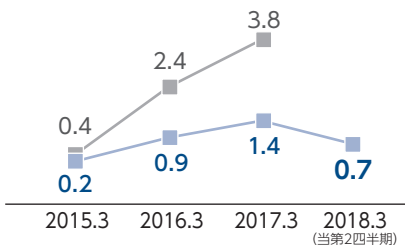
47.8%

(%) 第2四半期 通期



自己資本四半期(当期)純利益率(ROE) 0.7%

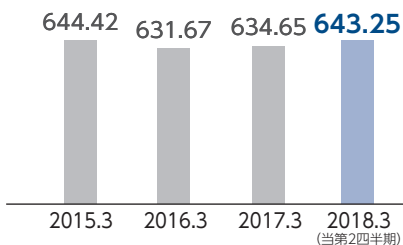
(%) 第2四半期 通期



1株当たり純資産

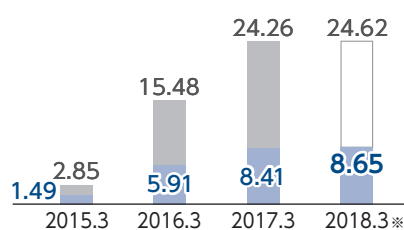
643円25銭

(円) 第2四半期 通期



1株当たり四半期(当期)純利益 8円65銭

(円) 第2四半期 通期 予想



【見通しに関する注意事項】

上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

※当社は2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、1株当たり四半期(当期)純利益は、2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第53期第2四半期(2017年4月1日から2017年9月30日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」の販売が拡大したものの、血液透析装置の販売が減少しました。海外においては、北米向けのAVF針(血液透析用針)の販売が増加したものの、中国国内のダイアライザー(人工腎臓)の販売が減少しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ1億23百万円減少の274億2百万円(前年同四半期比0.4%減)となりました。

利益につきましては、減収の影響に加え販売費等の増加により、営業利益は1億56百万円(同73.6%減)となりました。また、経常利益は持分法による投資利益を計上したこと等により3億34百万円(同52.2%減)となり、法人税等を調整した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億10百万円(同48.6%減)となり

ました。

配当金につきましては、当社は2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っておりますが、中間配当金は株式併合前の株式数に対して当初見通しのとおり1株につき4円とさせていただきます。

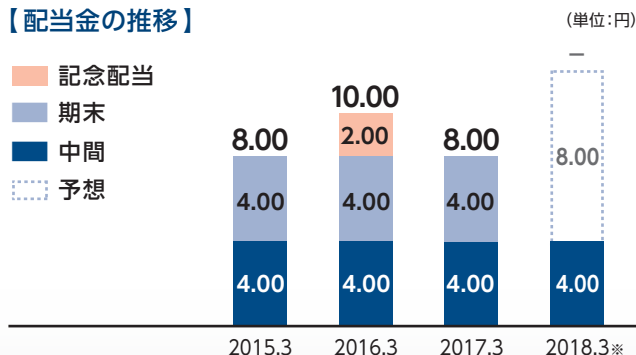
さて、当社はこのたび、JMSグループの持続的な発展と企業価値の向上を目指し、2020年度を最終年度とする中期経営計画《GAIN 2020》を策定いたしました。

《GAIN 2020》に掲げた基本方針のもと取り組みを着実に進め、医療現場の課題解決に真に役立つ価値を創造し、市場に新しいウェーブを醸し出すイノベーションの推進役となることで、引き続き医療の発展と社会に貢献してまいりたいと存じます。(P.05-08 JMS PREMIUM REPORT参照)

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

【配当金の推移】



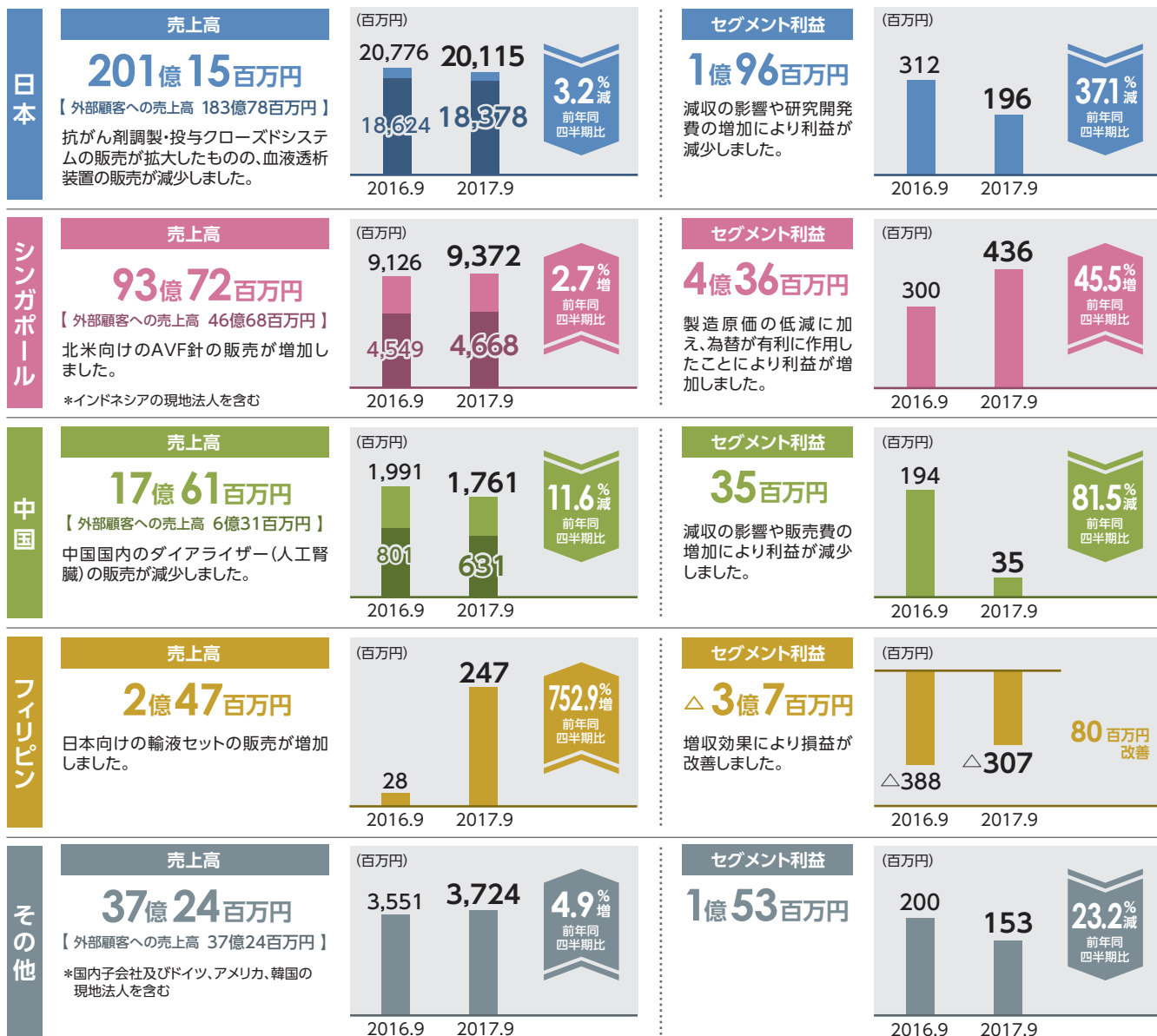
※当社は2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期(予想)の期末配当金は、株式併合後の金額を記載しており、年間配当金合計は、単純に合算できないため「―」を記載しております。株式併合を考慮しない場合の2018年3月期(予想)の期末配当金は4円、年間配当金8円となります。

代表取締役社長
奥窪 宏章



■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

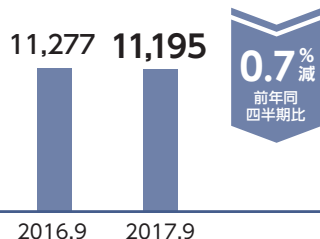


■ システム別

輸液・栄養群

売上高 **111億95百万円**

(百万円)

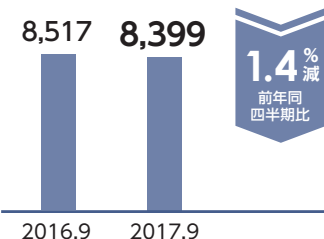


日本国内の抗がん剤調製・投与クローズドシステムの販売が拡大したものの、アジア向け輸液セットの販売が減少しました。

透析群

売上高 **83億99百万円**

(百万円)

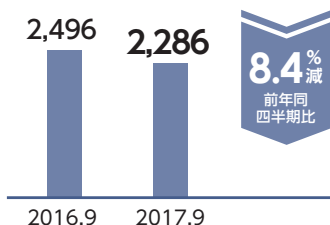


北米向けAVF針の販売が増加したものの、中国国内のダイアライザーや日本国内の血液透析装置の販売が減少しました。

外科治療群

売上高 **22億86百万円**

(百万円)

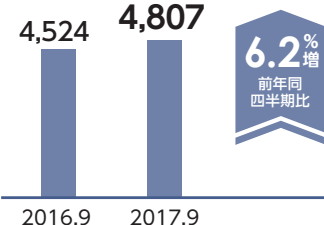


人工心肺装置の販売が減少しました。

血液・細胞群

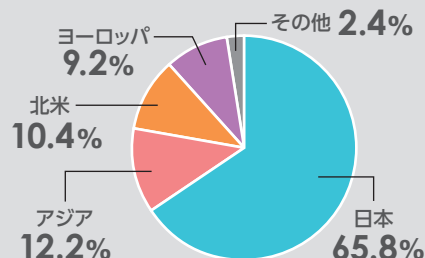
売上高 **48億7百万円**

(百万円)

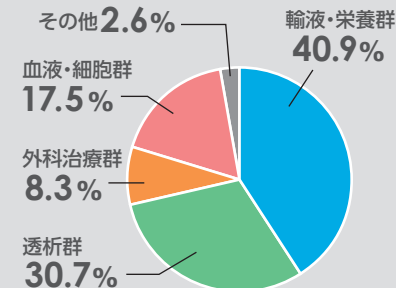


日本国内の白血球除去フィルター付血液バッグやアジア及びアフリカ向け血液バッグの販売が増加しました。

■ 地域別売上高構成比



■ システム別売上高構成比



輸液・栄養群

輸液セット、注射針・注射筒、輸液ポンプ、経腸栄養関連製品、医療用手袋、不織布製品 他

透析群

血液透析装置、ダイアライザー(人工腎臓)、人工腎臓用血液回路、AVF針(血液透析用針)、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

外科治療群

人工心肺装置、膜型人工肺、人工心肺回路、ペースメーカー、AED(自動体外式除細動器)、マイクロカテーテル 他

血液・細胞群

輸血セット、血液バッグ、血液成分分離バッグ、細胞保存搬送容器 他

【記載方法の変更について】

- ◎当期より、所在地別の報告セグメントの区分及び名称の記載方法を変更しています。従来「その他」に含まれていた「フィリピン」は重要性が増したため、報告セグメントとして記載しています。従来の「ドイツ」及び「アメリカ」は「その他」に含め、「東南アジア」は「シンガポール」に名称変更しています。前期のセグメント情報は、変更後の区分及び名称により作成したものを記載しています。
- ◎当期より、組織再編に伴いシステム別の記載区分を変更しています。前期のシステム別情報は、変更後の区分及び名称により記載しています。

《GAIN 2020》

Globalization, Acceleration and Innovation for

変化し続ける市場動向に柔軟に対応し、 収益力を強化する 中期経営計画を策定しました。

このたび2020年3月期を最終期とする
中期経営計画《GAIN 2020》を策定しました。
今回はその概要を、社長インタビューをとおしてお知らせいたします。



代表取締役社長
奥窪 宏章



中期経営計画《GAIN 2020》策定の背景を教えてください。



世界的に医療機器の需要が拡大する中で、医療現場の多様化する要求へ迅速な対応が求められています。

医療を取り巻く環境は、大きく変化しています。国内では、国の医療費抑制政策が続くことから、医療機関での医療機器へのコスト要求はますます強くなっています。一方海外市場では、新興国の経済成長に伴う医療ニーズの高まりにより、医療機器の需要が拡大しています。

こうした環境変化にスピーディかつ柔軟に対応し、収益を確実にあげていくために、「顧客起点での事業推進」と「全社的な生産性向上」を基本方針とする中期経営計画《GAIN 2020》を策定しました。

《GAIN 2020》には、「Globalization」「Acceleration」「Innovation」の3つのキーワードが含まれており、それにはグローバルな視点で「成長力」を高め、お客さまの要求にスピーディにお応えすることで「競争力」を高め、変革・挑戦を繰り返し、事業の「継続性」を高めていくという決意が込められています。

《GAIN 2020》 Globalization, Acceleration and Innovation for the New generation

グローバルに、スピード感をもってイノベーションを推進し、新たな時代を切り拓く

基本方針

- 1 顧客起点での事業推進
- 2 全社的な生産性向上

計数目標

売上高 620億円
営業利益 25億円

取り組み

- ① 機構改革（ビジネスユニット化）……………顧客起点で最適な事業戦略を迅速に展開
- ② 次世代事業の創出……………将来を担う事業の創出に積極的に挑戦
- ③ グローバル展開の加速……………アライアンス活用とダイレクトマーケティング
- ④ 最適生産の推進……………グローバル競争に勝てる製品供給体制の確立
- ⑤ コトづくりの強化……………モノづくり+コトづくりによる新たな顧客価値の創造

the New generation グローバルに、スピード感をもってイノベーションを推進し、新たな時代を切り拓く

Q 取り組みの最初にあげられた「機構改革」とはどのような内容ですか？

A お客さまの課題をよりスピーディに解決するため、ビジネスユニット(以下BU)型組織を導入しました。

高度で専門的な医療現場の様々な要求に迅速かつ的確に対応するには、どの分野が成長しそうか、どんなソリューションが期待されているかをいち早く認識し、他社に先駆けて製品やサービスを提案する体制の整備が重要になります。

このたび導入したBU型組織は、開発～生産～販売が一体となりお客さまの課題を共有し、チームで考え課題解決に役立つ製品・サービスをスピーディに生み出すことで、高い競争力を確保し事業の収益性を高めていきます。

Q BUに関する具体的な戦略を教えてください。

A BUごとの戦略を明確化し、あらゆる意思決定を速め、経営資源を機動的、効率的に配分していきます。

今年4月の機構改革で、ホスピタルプロダクツBU、サージカル&セラピーBU、ブラッドマネジメント&セルセラピーBUの3部門を設置しました。それぞれのBUにおいて市場特性を踏まえた事業戦略を構築し、展開をはじめています。

■ ホスピタルプロダクツBU

主に輸液領域や栄養領域を扱う部門で、医療を支える基盤医療器として高いシェアを保持し、安定的な需要が見込める重要な部門です。

このBUでの戦略は、第一にコスト競争力の強化にあります。これまで以上に原料価格や生産性を見直し、高品質な製品を他社に負けない価格で提供できる力を備えることで、足元の経営をしっかりと支えていくとともに、がん治療の成長領域へ事業展開を進め、収益の拡大を図っていきます。

■ サージカル&セラピーBU

透析領域と外科治療領域を扱う部門です。

透析領域の戦略は、安全性と効率性に優れた透析システムを、国内外で事業展開し安定収益を確保することです。その戦略を実現するために、アジアで日本式血液透析システムを普及させシェアを高めていく計画です。

外科治療領域では、既存事業の収益を強固にするだけでなく、新たに消化器外科領域への足掛かり構築に取り組んでいきます。

■ ブラッドマネジメント&セルセラピーBU

血液領域と細胞領域に関する部門で、今後大きな成長を期待する部門です。

中でも細胞領域は、iPS細胞などを活用した再生医療の研究が世界中で進められており、再生医療の各プロセスに必要な機器を開発することで、臨床使用への展開に貢献していきます。

また血液領域では、日本赤十字社へ供給している血液バッグのシェアを初年度の6%から将来的には30%を目指し、日本の血液事業における存在感を高めていく計画です。

ホスピタルプロダクツBU



製品力とラインアップを強化し、安定成長と収益確保の基盤を築く

輸液麻酔

栄養療法

一般用品

サージカル&セラピーBU



製品・サービスに加えて運営体制も見直し、収益性の向上に努める

血液浄化

循環器

外科治療機器

ブラッドマネジメント&セルセラピーBU



新技術の積極的な導入により顧客価値を高め、高い成長を目指す

血液事業

細胞事業

Q 次世代事業の創出に関する取り組み・方針を教えてください。

A 将来を担う事業の創出にも積極的に挑戦するとともに、新たな事業領域の確立を目指します。

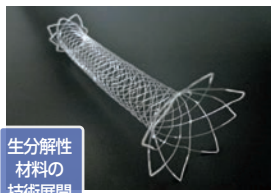
医療の安全と効率化、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上へのニーズは今後ますます強まるものと思われます。当社は、こうした流れを確実に捉え、市場に「イノベーション」をもたらした医療現場の「課題解決」に貢献することを、次世代事業創出の推進力にしたいと考えています。

具体的には、「ネオシールド」や「インナーシュアーエース」など、当社の技術を活かした製品を開発・投入することで、がん治療や消化器外科をはじめ新たな分野への進出に取り組んでいます。また当社が有する生分解性材料を加工し実用化する技術は、癒着防止材や消化管内分解ステントなどの製品化を進めると同時に、多様な分野への応用も期待されています。さらに透析領域で培った情報システムの技術やノウハウをベースにIoT、AIなどICT技術を活用した新たなソリューション開発にも取り組んでいます。

既存事業で汎用品とされる製品においても、従来にないコンセプトで視点を変えて製品開発することで、新たな可能性を見出すことは可能だと考えています。



がん治療領域
抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド®」



生分解性材料の技術展開
消化管内分解ステント



消化器外科領域
腸管吻合補助器「JMS インナーシュアーエース®」



再生医療
血液成分分離バッグ「セルエイド®」

Q 今後のグローバル戦略を教えてください。

A 伸長する中国及びASEAN地域のビジネスを拡大し、海外売上高比率40%をめざします。

当社における売上高の海外売上比率は33%(2017年3月期)を占めます。この比率を40%まで増加させることを中長期目標としています。

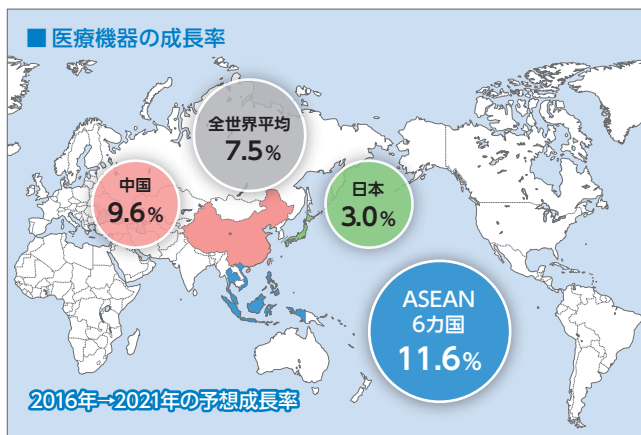
ターゲットは伸長するアジアで、中でも中国とASEANです。新興国では経済発展に伴う医療ニーズの高まりにより、医療機器の需要が拡大しています。医療機器市場の成長率は、2021年の予想で日本が3.0%、全世界平均で7.5%に対し、中国は9.6%、ASEAN6カ国では11.6%と、大幅な伸びが見込まれています(下図)。

これらアジアの国々に、日本で培った技術やノウハウをもとにアライアンスを活用して事業展開を行い、拡大する需要を取り込む計画です。

また生産拠点のある中国やインドネシア、フィリピンにおいては生産だけでなくとどまらず、地産地消の発想で市場開拓と製品開発を積極的に進め、販売展開を図っていきます。

主な グローバル 戦略

- ◎中国で日本式血液透析システム(CDDS)を展開
北京・上海・大連の医療機関へ導入
- ◎腹膜透析システムは、韓国メーカーで採用されているほか、
中国のメーカーへの技術供与を進行中
- ◎伸長するアジア市場でダイレクトマーケティングを展開



参考：編集／発行 株式会社みずほフィナンシャルグループ リサーチ&コンサルティングユニット



「最適生産の推進」とは、どのような取り組みですか？



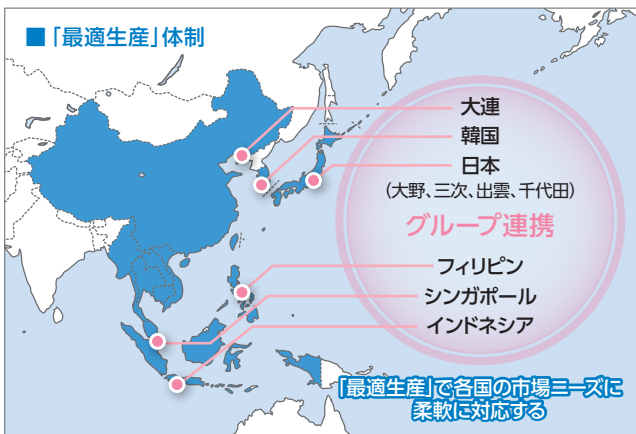
市場の変化を的確に捉え、効率的に競争力のある製品を生産し供給することです。

国内市場に対してはコスト競争力の強化と付加価値の高い製品の投入が必要ですし、拡大を続ける海外市場に対しては供給能力の増強が要求されます。

こうした市場ニーズに機動的に対応するには、国内・海外の生産拠点が部分最適で生産性を高めるだけでなく、グループとして連携し、将来性を見極め一体的かつ戦略的に運営する視点が重要です。

すでに既存工場からフィリピン新工場への製品の生産移管を順次進めており、これにより需要の高まるアジアへの供給能力が高まるだけでなく、フィリピン工場の操業度も徐々に上がってきています。

引き続き、グループでの「最適生産」を、スピード感をもち的確に進めることで、グローバル競争に勝ち抜く供給体制とコスト競争力を確立していきます。



「コトづくり強化」に対するおもしろさを教えてください。



医療現場が気づいていない課題解決法や新しい価値を、驚きとともに提案し続けたいと考えています。

医療に対する課題解決の方法は、決して一つではありません。これからの時代の課題解決には製品である「モノ」をお届けするだけでなく、一歩進んで、お客さまも気づいていない課題解決法や新たな価値をご提案する＝「コトづくり」が重要になると考えます。

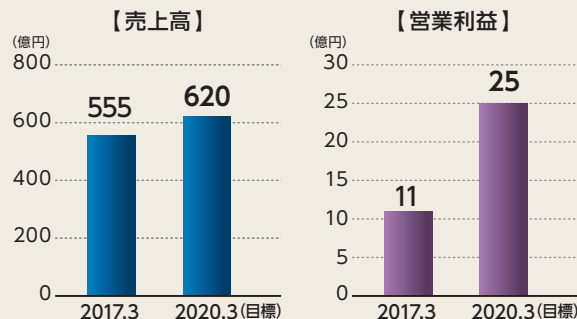
お客さまが驚きや衝撃を感じるような提案をし続けることができれば、これまでより強固な信頼や愛着をいただけます。そうした取り組みを続けることが「コトづくり強化」であり、真のイノベーションにつながると信じています。



最後に株主の皆さまへ、ひとことお願いします。

この中期経営計画《GAIN 2020》には、「GAIN＝成長力、競争力、継続性」を実現するための様々な決意を込めています。これを着実に実行していくことで、2020年3月期には、目標売上高620億円、営業利益25億円を必ず達成できと思っています。ぜひ《GAIN 2020》の成果にご期待ください。

計数目標／売上高620億円、営業利益25億円



多様なHDF※療法に対応し、操作性と安全性を向上させた 血液透析装置「JMS透析用コンソール GC-X01」を新たに開発

透析を必要とする患者数は年々増加する一方、医療現場では患者さんの高齢化や医療スタッフ不足が今後ますます深刻化すると予想されています。当社ではこうした状況に対応するため、このたび操作性・安全性を一段と向上させた「JMS透析用コンソール GC-X01」を開発しました。

「GC-X01」は、操作性に配慮したデザインに一新したほか、モニタリングによる各種の安全性機能を充実させました。

※HDF：HDF(Hemodiafiltration) 血液濾過透析

HD(血液透析)とHF(血液濾過)を組み合わせ、双方の長所を併せ持つ透析方法。血液中の大分子物質の老廃物を効率よく除去することができます。

さらに、多様なHDF療法に対応しており、透析療法の選択の幅が広がることで、患者さんのQOL向上にも貢献します。

「GC-X01」は拡張性を備えた設計で、今後はこの透析装置を基盤として継続的な機能向上に取り組み、医療現場の要望に柔軟かつスピーディに応えつつ、ラインアップの強化を進めてまいります。

主な特長

1 人間工学に基づいたデザイン・設計

操作時の姿勢や視線を考えたデザイン・設計により、最適な位置で血液回路を装着できるなど、操作性を向上させました。

自然な姿勢で
操作が容易



3 多様なHDF療法に対応

オンラインHDF機能やI-HDF機能に加え、新たにこれらを組み合わせたハイブリッドHDF機能を搭載しました。

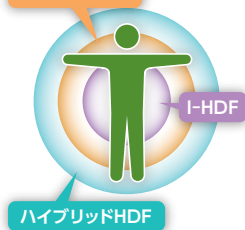
患者さんの
状態に合わせた
HDF療法が可能

【HDF機能概念図】

オンラインHDF

I-HDF

ハイブリッドHDF



2 15インチの大型液晶ディスプレイ

高解像度の大型ディスプレイ上に、直感的な操作を導く画面デザインを採用しました。

視認性の向上



4 モニタリング機能の充実

脱血不良や血液漏れを検知する機能の充実により、透析中の患者さんの安全性が向上します。



透析中の
安全性向上

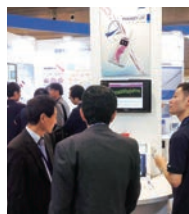
日本透析医学会で血液透析装置「GC-X01」を展示し 大きな反響をいただきました。

「第62回日本透析医学会 学術集会・総会」が、6月16日(金)～18日(日)に、パシフィコ横浜で開催されました。

当社ブースでは血液透析装置「GC-X01」やレーザー血流計「ポケットLDF®」などの展示を行い、3日間で延べ2,300人以上の方々にご来場いただきました。

中でも「GC-X01」によるデモンストレーションには多くの方々にご聴講いただき、ご参加の皆さまから、透析療法の選択の幅が広がることや省力化に期待する声などが寄せられました。

透析医療の最前線で活躍される医療関係者の皆さまからの声を参考に、当社では、さらに製品力の向上を図ってまいります。



展示会場の様子

被爆樹木を後世に引き継ぐ「緑の伝言プロジェクト」の活動支援を続けています。

当社の本社がある広島市は、1945年8月6日、人類初の原爆投下により一瞬にして灼熱の閃光に包まれましたが、被爆しながらも再び芽吹いた木々が、今も市内に数多く残されています。

広島市では、爆心地から概ね2km以内で被爆した樹木を調査し、現存する約170本を選定し、「緑の伝言プロジェクト」として後世に引き継いでいくため樹木医の管理の下、樹勢回復措置や樹木の治療を行っています。

当社は2009年からこのプロジェクトに参加し、被爆樹木を守り伝える活動の一端を担っています。

Green Greetings
from 161 A-Bombed Trees in Hiroshima

「緑」の伝言。

もっと知ってください。[被爆樹木]のこと。「緑」の伝言サイト

www.green-greetings.com

緑の伝言

検索



「緑の伝言プロジェクト」ポスター

財務諸表《連結》

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度 2017年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2017年9月30日現在	科 目	前連結 会計年度 2017年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2017年9月30日現在
《資産の部》			《負債の部》		
流動資産①	36,279	36,111	流動負債③	20,784	19,816
現金及び預金	6,270	5,606	固定負債④	13,836	14,321
受取手形及び売掛金	15,357	15,559	負債合計	34,620	34,137
たな卸資産	13,032	13,099			
その他	1,619	1,846	《純資産の部》		
固定資産②	29,402	29,503	株主資本	30,803	30,819
有形固定資産	23,942	23,851	その他の包括利益累計額	127	529
無形固定資産	448	422	非支配株主持分	130	128
投資その他の資産	5,011	5,229	純資産合計⑤	31,061	31,477
資産合計	65,681	65,615	負債純資産合計	65,681	65,615

POINT 解説

① 流動資産 [前連結会計年度末に比べ
1億67百万円減少]

・現金及び預金が減少しました。

③ 流動負債 [前連結会計年度末に比べ
9億67百万円減少]

・支払手形及び買掛金が減少しました。

② 固定資産 [前連結会計年度末に比べ
1億1百万円増加]

・投資有価証券が増加しました。

④ 固定負債 [前連結会計年度末に比べ
4億84百万円増加]

・長期借入金が増加しました。

⑤ 純資産 [前連結会計年度末に比べ
4億16百万円増加]

・為替換算調整勘定が増加しました。

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日
売上高	27,526	27,402
売上原価	20,363	20,449
売上総利益	7,162	6,953
販売費及び一般管理費	6,569	6,796
営業利益	592	156
営業外収益	250	279
営業外費用	143	102
経常利益	699	334
特別利益	101	1
特別損失	113	11
税金等調整前四半期純利益	687	324
法人税等	270	112
四半期純利益	416	211
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	409	210

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,399	381
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,772	△1,766
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,141	676
現金及び現金同等物に係る換算差額	△485	40
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△717	△668
現金及び現金同等物の期首残高	5,982	6,333
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,264	5,665

>>> POINT 解説

- 営業活動によるキャッシュ・フロー 前年同四半期に比べ
20億18百万円減少
 - ・仕入債務の増減額によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー 前年同四半期に比べ
20億6百万円減少
 - ・有形固定資産の取得にかかる支出の減少によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー 前年同四半期に比べ
4億64百万円減少
 - ・借入金の収支差額によるものです。

>>> POINT 解説

- ⑥ 売上高 前年同四半期に比べ
1億23百万円減少
 - ・日本と中国での販売が減少し減収となりました。
- ⑦ 営業利益 前年同四半期に比べ
4億36百万円減少
 - ・減収の影響に加え販売費等の増加により減益となりました。

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社概要 (2017年9月30日現在)

●当社の概要

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,621人 (グループ総数 6,268人)

●役員

代表取締役社長	奥 達 宏 章	取 締 役	井 口 明 彦
常 務 取 締 役	栗 根 康 浩	取 締 役	池 村 和 朗
取 締 役	国 富 純	監 査 役(常 勤)	兼 口 昇 万
取 締 役	森 川 重 美	監 査 役	早 稲 田 幸 雄
取 締 役	佐 藤 雅 文	監 査 役	水 戸 晃
取 締 役	桂 龍 司		
取 締 役	柳 田 正 吾		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。
※早稲田幸雄氏、水戸晃氏は、社外監査役であります。

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、製造拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- 1 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- 2 ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.《製造・販売》
- 3 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司《製造・販売》
- 4 ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- 5 バイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- 6 PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造・販売》
- 7 ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造》



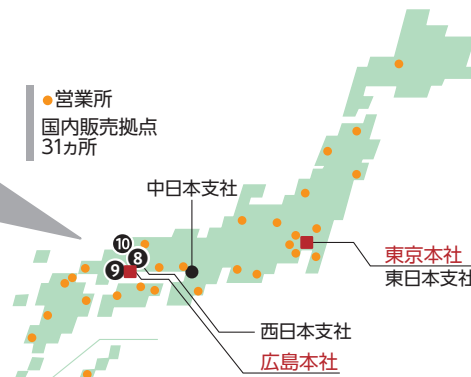
国内ネットワーク

子会社

- 8 ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》
- 9 株式会社 大野《業務請負業》

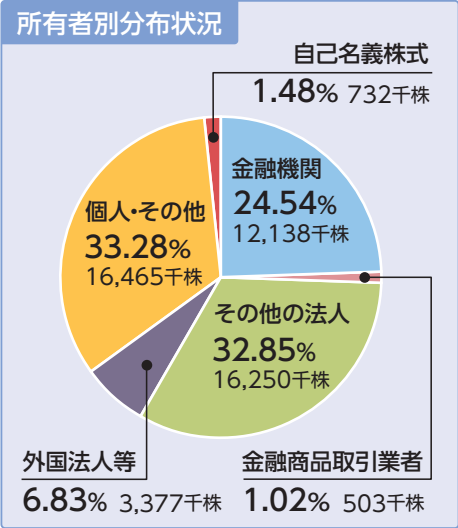
関連会社

- 10 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》



株式概要 (2017年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 … 100,000,000株
- 発行済株式総数 … 49,466,932株
(自己株式732,238株を含む)
- 株主数 … 4,559名

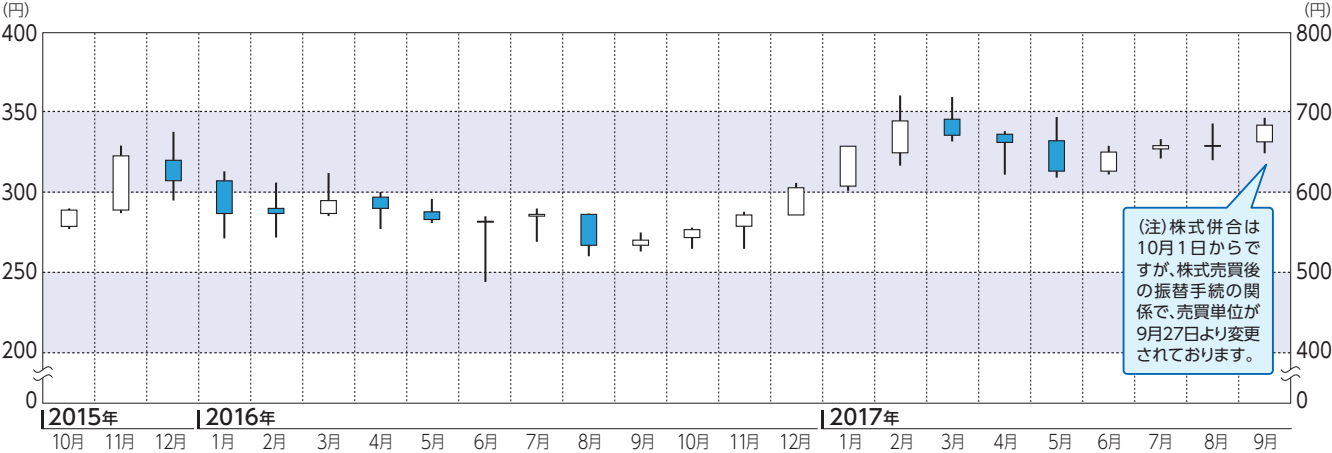


大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	4,947	10.15
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
JMS 共栄会	1,147	2.35
大下産業株式会社	1,142	2.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,025	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,011	2.07

(注) 持株比率は、自己株式(732,238株)を控除して計算しております。

株価推移



単元株式数の変更および株式併合について

当社は2017年10月1日をもって、単元株式数の変更および株式併合を実施いたしました。

■ 単元株式数の変更

- ① 変更の内容 当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。
- ② 変更の理由 全国証券取引所が発表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を尊重し、単元株式数を100株に変更することいたしました。

■ 株式併合

- ① 併合の目的 当社株式の投資単位を、上記単元株式数の変更後においても証券取引所が望ましいとする投資単位の水準（5万円以上50万円未満）とするため、2株を1株とする株式併合を行いました。

② 併合の内容

【併合する株式の種類】 普通株式

【併合の方法・比率】 2017年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主様の所有株式数を基準に、2株につき1株の割合をもって併合いたしました。

③ 併合の影響

今回の株式併合により株主様の所有株式数は2分の1となりますが、株式併合の前後で会社の資産や資本の状況は変わりませんので、株式1株あたりの資産価値は2倍となり、株式市況の変動等他の要因を別にすれば、株式併合によって株主様所有の当社株式の資産価値に影響が生じることはありません。

④ 1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 JMS

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】

テーマ「新たなステージへの飛躍。」



地球を包むように広げる手から人や街が連なって上に流れていくモチーフ。2020年に向かって、JMSがグローバルな視点とスピード感をもって、人々の健康的な暮らしを支える力になるために、今よりさらに躍進して、時代を切り開いていく姿勢を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。